

石川県におけるデイサービス事業の実態と 運営上の課題

橋爪 祐美 大森 絹子 長沼 理恵

KEY WORDS

Adult Day Care, Activity Report, Elderly Care, Community Health Nursing

はじめに

我が国における要介護高齢者に対する保健福祉施策の目標のひとつはQOL (Quality of Life : 生活の質) の向上である¹⁾。デイサービス事業はこの点に高く寄与する地域サービスのひとつとされている²⁾。デイサービス事業は1974年に老人福祉法に基づいて施行され、要介護高齢者の離床と屋外への連れ出しをもって寝たきり化の防止を促進し、QOLの向上をねらいとしている。要介護高齢者の身体状況等に合わせた対応をするために、重介護型(A型)、標準型(B型)、軽介護型(C型)、小規模型(D型)、痴呆型(E型)の5つの型の種類が設けられている。比較的歴史が浅いサービスであることから実態は各地域において様々で統一されたものはない³⁾。デイサービス事業の実態について明らかにし、要介護高齢者個人に対する支援方法やサービスの評価を行うのは保健婦の重要な機能のひとつである。そこで石川県内のデイサービスセンター全施設を対象にサービスの実態や地区分布、保健婦との連携の実態を把握しその運営上の課題について検討した。

対象と方法

平成7年4月現在、石川県内ではA型16か所、B型17か所、D型5か所、E型2か所の計40施設が開設されている(C型は開設されていなかった)。全デイサービスセンター長に対して郵送調査を行った。調査内容は、実施年数、実施時間、総利用人数、利用者の寝たきり度、痴呆の割合、実施内容、設置の目的、利用者に対する評価の視点、デイサービスと市町村保健婦との連携についてであった。

調査票の回収率は90%(A型14か所、B型16か所、D型5か所、E型1か所の計36施設)であった。数

量的なデータについてはデイサービスの型と地区の分布を検討するために36施設をデイサービスの型と老人人口占有率別で3地区に分類し、統計的な比較検討を行った。その際、老人人口占有率で9.0~15.0%以下をI地区、15.1~19.0%以下をII地区、19.1%以上をIII地区とした。統計学的分析にはSPSS 4.0 J for the Macintoshを用いた。

結 果

デイサービスセンターの型別特徴を表1に示した。デイサービスセンターの型と地区分布については、重介護型のA型はIII地区に9か所、II地区に3か所、I地区に2か所が配置され老人人口占有率の高い地区に重介護型が多く配置されていた。標準型のB型はIII地区に1か所、II地区に4か所、I地区に11か所が配置され老人人口占有率の比較的低い地区に多く配置されていた。またI地区には小規模型のD型が5か所配置されていた。E型はII地区に1か所しかなかったため統計学的分析からは除外した。総利用人数は、重介護型であるA型では平均203.5人(標準偏差30.6)、標準型のB型では平均68.1人(標準偏差14.4)、小規模型のD型では平均22.0人(標準偏差4.4)であり、有意差がみられた($P < 0.01$)。利用者に占める痴呆の割合はA型で11.2%、B型では16.3%、D型では15.0%であった。実施年数は各型で平均2.6から4.9年、実施時間は平均8.2から8.7時間であり各型の間で有意差は認められなかった。利用者の寝たきり度は、いずれの型においても寝たきり度Aの高齢者の割合が多かった。実施内容として機能訓練事業を行う施設の割合は、A型では92.9%、B型では86.7%、D型では20.0%で小規模型のデイサービスセンターにおいては機能訓練を行わない傾

表1 デイサービスの型別特徴

	デイサービスの型			
	A (n=14)	B (n=16)	D (n=5)	E (n=1)
地区分布 (デイサービスセンター数)				
I 地区	2	11	5	0
II 地区	3	4	0	1
III 地区	9	1	0	0
利用者の特性 (%)				
寝たきり度A	26.1	38.5	21.4	-
B	11.9	23.1	11.4	-
C	8.6	25.6	1.4	-
痴呆	11.2	16.3	15.0	-
実施内容 (%)				
機能訓練を行う	92.9	86.7	20.0	-
実施年数 (年)				
M	4.9	4.9	2.6	2.0
SE	0.7	0.9	0.7	-
実施時間 (時間)				
M	8.7	8.1	8.2	11.0
SE	0.5	0.3	0.4	-
総利用人数 (人)				
M	203.5	68.1	22.0	10.0
SE	30.6	14.4	4.4	-

*** $p < .001$.

向があった。設置の目的としては「利用者の社会的孤立の解消」がA型で多く、A型のデイサービスセンターのうち78.6%が回答した。また「介護負担の軽減」が標準B型、D型、E型で多い回答で、それぞれ75.0%、80.0%、100.0%であった。利用者に対する評価の視点としては、すべての型のデイサービスセンターにおいて日常生活動作の自立度を重視していた。市町村保健婦への連絡頻度ではABD型で「随時とっている」が多い回答で、各々35.7%、37.5%、80.0%であった。また保健婦との連絡の内容については、16.7%のデイサービスセンターが機能訓練・家族介護教室の講師を他の機関から紹介してもらうためにとるということであった。また、デイサー

ビスのプログラムの計画・立案に関する保健婦の関わりの有無については、75.0%のデイサービスセンターが無しと回答した。

考 察

石川県内においては現在までのところ重介護型は老人人口占有率の高い地区に多く配置され、利用者数が多く、要介護高齢者自身への支援を重視する傾向があること、一方標準型、小規模型は老人人口占有率の比較的低い地区に多く配置され、介護者に対する支援を重視し、機能訓練を行わない傾向があった。このことから老人人口の規模に施設の型を合わせて適切にデイサービスセンターが配置されている

ことが考えられた。しかしながら、各型の間で寝たきり度や痴呆の構成割合に大差はみられず、さまざまな寝たきり度のレベルにある要介護高齢者がひとつの施設に集中していた。国は在宅介護の支援として1994年に新・高齢者保健福祉推進10か年戦略（新ゴールドプラン）を作成し保健福祉サービス数の拡充を推進している。そのなかでデイサービス事業は平成6年には5,273か所、平成7年には8,643か所と増設され、平成11年度には17,000か所の設立を目指している²⁾。今後デイサービス事業の開設が増加することにより、型別の設置目的に対応した対象者の利用が可能になることが期待される。またデイサービス事業の設置目的は利用者の社会的孤立の解消や介護負担の軽減で、デイサービスの評価の視点としては日常生活動作の自立度が重視されていた。このことから要介護高齢者の寝たきり化防止・屋外への連れ出し施策としてのデイサービスの目的が浸透しており、QOL向上のひとつの目安として社会的孤立の解消を重視していることが推察できた。しかしながら、社会的孤立の解消をデイサービスの目的として重視する一方で、デイサービスの利用者に対する評価の視点は日常生活動作の自立度でみていることから、目的と評価の視点にずれがあることが考えられた。QOLとは身体的、心理社会的側面の多岐にわたる因子を包括的にとらえた概念であることから定義は難しいことが指摘されている³⁾が、このことがデイサービスの目的や評価の設定を曖昧にしていることが考えられる。今後はデイサービスの目的と対応した評価の設定について検討する必要があると思われる。

デイサービスに関する市町村保健婦の活動は現在の所、他の機関との調整役が主であることがうかがえた。市町村の保健婦は従来から社会資源と高齢者・家族の調整役としての活動を行っているが、近年ではサービスを利用中の対象者について継続的にフォローし、支援方法やサービスの評価につなげることも在

宅要介護高齢者を支援するサービスシステムづくりに関する保健婦活動として重要である^{3・4)}。今回の調査はデイサービス側の認識に限定したものであることから保健婦の関りの詳細については把握出来なかった。デイサービス事業への関りについて、今後は保健婦側の認識から把握していく必要性がある。

まとめ

石川県内のデイサービスセンター全施設を対象にサービスの実態や地区分布、保健婦との連携の実態を把握し、その運営上の課題について検討した。実態としては現在までのところ、老人人口の規模に施設の型を合わせた適切なデイサービスセンターの配置がされていることが考えられた。運営上の課題として、今後はデイサービスの評価の設定や、利用者への支援に関する保健婦側の認識について検討する必要があることが考えられた。

謝辞

本調査の遂行におきまして多大なご協力をいただきました石川県厚生部長寿社会課、並びに調査にご協力いただきましたデイサービスセンターの皆様にご感謝致します。

本研究の一部は石川県看護研究者養成事業からの助成金によって行われた。

文献

- 1) 厚生統計協会：国民衛生の動向。第4章老人保健，45(9)：119-130，1998。
- 2) 厚生統計協会：国民福祉の動向。第6章老人福祉，45(12)：186-206，1998。
- 3) Hashizume, Y., Kanagawa, K. : Correlates of participation in adult day care and quality of life in ambulatory frail elderly in Japan. Public Health Nursing., 13(6) : 404-415, 1996.
- 4) 望月弘子：保健婦活動における調整機能とは。保健婦雑誌，47(10)：759-778，1991。

Activity report on adult day care program for frail elderly people

Yumi Hashizume, Kinuko Omori, Rie Naganuma